「只見 移住物語」

風工房 手工バイオリン製作

【移住者のご紹介】

・お名前：富川（ふかわ） 智（さとる）様　68 歳

・ご家族：富川（ふかわ） 陽子（ようこ）様（妻 64 歳）・長女・次女・長男

・いつ：2001 年から富川 智様の定住スタート、奥様は神奈川県 横浜市 金沢区 在住。
・どこから：神奈川県 横浜市 金沢区
・どこへ：只見町 大字長浜
・いましていること：バイオリン製作
・まえにしていたこと：商品開発系 サラリーマン

富川ご夫妻　自宅のベランダで

【始まり】
移住する 20 年前からバイオリン製作の師匠について作り方を学んでいました。
移住はバイオリン作りをするためです。自然の気持ち良いところでバイオリンを作りたか

ったのです。1998 年から家を作りだし、1999 年に完成。2001 年から定住しました。
横浜はマンションなのでバイオリンを作る時に出る音や、匂いもありできなかったのです。作業部屋、木工を加工する部屋、ニス塗りの場所も、寝泊り生活の場所も必要になるので、横浜で借りるとなれば家賃も高額になるので、ここになりました。

私が作るものはプロフェショナルの人達が使うものではなく、学生さんが使うような楽器です。でも、学生さんが使う楽器だとしても、それが学生さんの手元に届くまでには小売店なり、ディーラー、問屋が仲介としてはいります。教育ママの目も！ものすごく見る目が厳しいです。仲介を通さずに直接売る人もいますが、そのような人は年間 1 本か、2 本売れるか売れないかの世界です。私はこれで食べていますから、売れなければ困るので、定期的に作ったものは必ず売れるようにしなければなりません。プロフェショナルとしては、やはり問屋さんにバイオリンを出荷して、その売り上げで次のバイオリン材料を買い、また作ってゆく。小売店の希望を取り入れて。自分の我儘だけで作っては駄目です。

NHK の朝ドラで主人公が陶芸家になってゆく話しがありましたね。ドラマの中の師匠が、主人公の女性に『あなたは陶芸をやりたいのですか？それとも陶芸家になりたいのですか？』という問いかけをする場面がありましたよね。一個作って陶芸をやりました、と言うのではなく、陶芸家としての生活をしたいと言う事なのですね。プロになると言うことです。私もバイオリン製作家になりたいと思いました。いまも修行中、生涯修行ですね。いままでにバイオリン、ビオラ、チェロを合わせて 130 本位作りました。（プロフェショナルとしては）少ない方です。

若い時は 1 年間で 10 本作っていましたが、それでもイタリアの師匠には（少ないと）笑われました。イタリアの職人はすごい人たちです。年間で 20 本位作りますから。
イタリアには短い期間ですが修行に行きました。いまはインターネットもあるし、夜にメールで質問すれば、翌朝にはイタリアから返事が来ている、そのやり取りを繰り返す感じです。師匠は日本人なので日本語でのやり取りです。師匠を通してイタリア人の職人に質問を聞いてもらえることもできました。その師匠がいなければ、今の自分はいなかったと思います。本当にいろいろな人との関わり合いがあって、いまの私がいると思っています。

バイオリン製作の材料は、すべて輸入品です。バイオリンって、どこの山のどの木を使って初めてバイオリンの音になるっていう決まりごとがあります。例えばヨーロッパアルプスの南側斜面、イタリア側がいいと言うことで、そこの木を使います。表板がモミの木で、裏板はカエデです。カエデと言っても日本のカエデとは違って軽いです。

日本の材料で作る人もいます。その方が良いと言う人も。自分で創るものは可愛いいですからね、でも売るとなるとまた別の話しです。ちゃんとしたバイオリンの音が出なければ売れません。日本の材料で作りましたと言っても、誰も珍重してはくれません。（智様）

【家族】
一緒にいこいの森キャンプ場（現 奥会津 ただみの森キャンプ場）に来ていましたので、土地を買うことについても、工房を建てることについても承知していました。

バイオリンの職人になると言うことはずっと前から、結婚して間もなくのころから言い続けていました。バイオリンの職人になるのは少し早い気もしたのですが、60 歳から始めたのでは遅いと思いました。いずれ退職したら職人になるのだろうと思っていましたが 10 年前倒しになりましたね。（陽子様）

【準備】
移住先として只見を選んだ理由は、私は山が好きで、いこいの森キャンプ場（現 奥会津ただみの森キャンプ場）によく夫婦で来ていました。町にたもかく（現 みんなの森協同組合）という本屋さんがあるというので訪ね、そこで「工房を作るようなところはありますか」という話になり、この土地を紹介してもらいました。当時、この土地と、すぐ下に旧営林署の管理棟があり、売り出されていたのですが、新築を建てるつもりで、この土地を購入しました。斜面の土地が気に入ったのです。

家を建てるのに 3 年かけました。資金の問題もあり、少しずつ建てて行ったのですが、余り長い時間をかけると木材のひずみが出ると大工さんのアドバイスを受け、完成させ移住しました。移住で不安に感じたことは、なにもありません。田舎暮らしは慣れていました。家内は米沢の出身で、私も学生時代に米沢にいたので、米沢へ行く選択肢も考えましたが、米沢に行くと親戚付き合いが大変だと思い、途中で止まって只見に住むことになりました。

むしろ自分でバイオリンを作って売れるかものすごい不安がありました。先ず、ちゃんとバイオリンが作れるか技術的な問題があり、さらにそれが売れるのだろうか不安でした。プロになってからイタリアの師匠、内山さんから「どういう心構えでバイオリンを作らなければならないか」アドバイスを頂きました。クレモナ（イタリア半島の付け根部分 ロンバルディア州の手工バイオリンで名高い町、ミラノに近い）を訪れるに当たり内山さんへメールを入れました。内山さんから『あなたにはもう教えることはありません。ただ心構えを知りたいのであればクレモナにいらっしゃい』と言われ、イタリアへ出発しました。師匠は技術的に『あれがダメ』と言うことは何も言いません。『そのようなやり方でもいいじゃないですか』といった指導を受けました。

移住する気持ちを固めたのは、勤めていた会社で希望退職の募集があり、それを機会に 49 歳で退職しました。仕事環境は厳しく、朝 5 時に家を出て、12 時に帰宅するような生活でした。私が会社を辞めることについて家族の反対はありませんでした。1 年間修行を積み

50 歳で只見に移住しました。（智様）

移住して工房を立てることは良かったのですが、会社を辞めると言われた時は、子供が大学に入る前だったので、これから大学生 2 人抱えてどうしようかと思いました。（陽子様）

当時（移住後）は 2 人分の国民年金を支払い、工房の維持費、生活費を入れなければならないので、ものすごく大変でした。それは生活を始めてから気が付きました。貯蓄で 10 年間くらいは賄うつもりでしたが、それが 8 年ほどで底をついてしまいました。本当に貧乏と言うのはこういうことだと思いましたね。（智様）

（バイオリン）1 本分の宅配便代だけは手元に残しておこうと思っていました。宅配便でバイオリンを送れば、その売り上げで何とかなります。宅配便のお金まで使ってしまうと、その先やりようがない。だから宅配便代として 2,000 円は取っておきました。

一度 宅配便代を支払って、出荷した後に 200 円残りました。草刈りをするためにガソリンを買った後、財布の中を見ると 50 円しか残っていなかった。本当に大変でした。
作ったバイオリンはすべて買い取ってもらいました。もう売るものがなく、材料を売るしかなくなり、材料を買ってもらったこともあります。売るとなると値段は二束三文です。それでも人柄の良い親方が現金で 10 万円分の材料を買ってくれて、しのげたことがありました。あの 10 万円は嬉しかったです。（智様）

工房にて、制作中のチェロと共に

【現在】
年間を通してバイオリンの製作をしています。

移住して良かったと感じる事は、これは後で解ったことですが、只見の気候がバイオリン作りにとても良いことです。一つは材料が冬場に乾燥しすぎないことです。冬場に乾燥しすぎると、ストックしてあるバイオリンの材料がひび割れてしまうのです。あと梅雨が短めなので、いつでもニスが塗装できます。関東では梅雨時はニス塗が出来ないのです。ニスが白く濁ってしまうからです。こちらに来て気候がバイオリン作りにあっていることに気が付きました。長野県 松本は、日本の量産バイオリンのメッカですが、同じような事なのかもしれません。（智様）

【変化】
移住して自ら変わった事は、おしゃべりになったことです。
この家が展示室であり、また会食の場にもなります。一杯飲みながら話をする。毎週そんなことをしていたので、おしゃべりになりました。近所の方や集落の方と仲よくなり話が弾む感じです。『まあ寄ってお茶飲んで』なんて、マンションを訪ねてきた人を部屋に入れ、お茶を出して話すなんて、都会では考えられないことですが、ここでは平気にありますね。（智様）

玄関の前に大根とか白菜が沢山おいてあったこともありました。（陽子様）

学生時代にマンドリンクラブに入っていました。40 年ぶりに大学の仲間とマンドリン合奏をもう一回してみようと言うことになり、ここ（工房）で当時のメンバーが 7 人集まり練習して、朝日保育所で演奏会を開いたことがあります。そんな感じで練習の場所にもなり、一般の住宅ではなかなかできないことですね。気が付いたらおしゃべりになっていました。（智様）

【将来】
いま腰が悪いので心配をしていますが、健康で、バイオリン製作を長く続けて欲しいです。
（陽子様）

いまは体調が悪く休んでいますが、月に 2 回 横浜までチェロを習いに行っています。
やはり一流の先生に習うと全然違います。自分の息子より若い先生です。メソッド（教授方法）も昔とは全然違っていて、試しに一か月レッスンを受けたものが、感動してしまい、もう 2 年通っています。（智様）

【不便】
暮らし始めて困ったことは、会津交通の定期バスがなくなってしまったことですね。

いまは雪んこタクシーと自然首都只見号がありますが、それができるまでの2年間　土日は動く手段が全くありませんでした。（智様）

ずいぶん山口まで自転車で行きましたよ。山口まで行くとバス便がありますから。その時間に合わせて、山口まで行きました。雨の日も自転車で往復しましたね。（陽子様）

自転車でむら湯によく行きました。むら湯に入り、ビールを一杯飲んで、そこにいた方とおしゃべりして、帰ってくる。バス便が無くなってしまったあと田島に出るためにバイクを買いました。バイオリンを売りに行かなければならないじゃないですか。『月曜日ならお会いできます』というお店があって、そのために土曜日か、日曜日に移動しなければならない。自転車でバイオリンを背負って山口へ行くのは結構しんどいので中古の原付バイクを2万円で購入しました。足が悪くて転ぶと危ないので自転車もバイクも手放しましたが、いまは雪んこタクシーも自然首都只見号もあって昔より便利になりました。（智様）

自然首都只見号も予約なしで乗れるようになりましたしね。（陽子様）

【健康】
規則正しい生活をすることです。東洋医学の整体の先生から『歳を取ってからも筋肉をつけることは可能だから、筋肉を付けるように一生懸命努力すれば治ります』とアドバイスを受けて、筋力をつけるトレーニングをしているのですが、これがなかなか続かない。
（智様）

【アドバイス】
これから移住する方へアドバイスとしては、地域住人を尊重して、住まわせて頂いているという心構えが大切かと思います。実際には、このことを理解できるようになるまで自分も20年程の時間がかかりました。（智様）

【生活】
ここで子育てをするのは最高の環境だと思います。小学校、中学校、高校まで。子供も年寄りも大切にしているところだと思います。高校は、教育も就職指導も、丁寧ですね。
（智様）

ここの子供たちはちゃんとあいさつをしてくれて、とても気持ちいいですよ。（陽子様）

【印象】
只見の自然環境は気に入っています。家内は米沢の出身で、私も学生時代に米沢にいたので、雪に対しては全然抵抗がありませんでした。「ここは雪が多いよ」と言われましたが、雪に慣れていましたし、当たり前だと思っていました。

サンマートがしている「たすかある便」がとても便利です。無料の買い物送迎車ですが、とても助かっています。この地区は火曜日、木曜日、土曜日の運行です。私は土曜日に利用しています。いつも集落のおばちゃんと一緒になって、行き帰りに色々な話をすると、またお友達が増えていいですね。

『どんなに素晴らしい自然環境であろうと、そこに親しい友人がいなかったら、そんなんものなんの魅力もない...』としみじみ感じます。孤独が好きで自然の豊かなところに山小屋を作り一人で住みたいなんて考える人もいるかもしれないけど、そんなものは2週間住めば飽きてしまう。やはり、そこに気心知れた友達がいて初めて、魅力のある自然なのだろうなと感じます。（智様）

2020年6月21日　ご自宅（風工房）にてインタビュー

インタビュアー　移住コーディネーター　生天目 博